

第5 研究の成果と今後の取組

1 研究の成果

(1) 各教科における身に付けさせたい力の育成

各教科において、「生きる力を育む」という共通主題を踏まえ、各教科における身に付けさせたい力を定め、調査から明らかになったことを基に設定した手だてを講じたことにより、身に付けさせたい力を育むことができた。各教科の身に付けさせたい力は以下のとおりである。

- 国語 「的確に根拠を示して思考の過程や結果を表現する力」
- 社会 「伝統や文化を広い視野で理解・認識する力」
- 算数・数学 「事象を算数・数学的に捉えようとする力」、「事象を数理的に考察し、表現・判断する力」
- 理科 「問題に対し既習事項や生活経験などの根拠をもって予想し、仮説を立てる力」
「予想や仮説と照らし合わせて観察・実験の結果を考察する力」
- 外国語 「英語で表現できる実践的な運用能力」

(2) 身に付けさせたい力に迫るための有効な手だての明確化

身に付けさせたい力に迫るために、昨年度の調査研究を基に設定した「各教科共通の手だて」の6点と「各教科が設定した手だて」を位置付けて検証授業を行い、各教科において有効である手だてを明確にすることができた。各教科で共通する有効な手だては、以下の2点である。

- 思考力・判断力・表現力等を育むために、考える時間や自分の考えを書く時間、表現する時間を授業に適切に位置付け、その学習活動を継続的に行う。
- 確かな学力の定着と伸長を図るために、授業のはじめに単元や本時のねらいを児童・生徒に明示し、授業の終わりに振り返りをさせる活動を継続して行う。

(3) 小学校・中学校・高等学校の各段階での効果的な手だての明確化

各学校段階で効果的な手だてには違いがあり、実態に即して手だてを位置付けることが必要なことが明らかになった。以下は、各教科における主なものである。

- 国語 表現する活動において、小学校では理由、中学校では根拠、高等学校では妥当性の高い根拠を用いる学習内容を設定すること
- 社会 伝統や文化を理解する上で、小学校では体験的な活動や人材活用、中学校・高等学校では資料からの情報収集等を実施すること
- 算数・数学 自力解決の段階において、小学校では具体物や半具体物の活用、中学校では身の回りの事柄との関連の明示、高等学校では、既習の定義や公式を活用すること
- 理科 考察の記述では、発達の段階に応じて記述する観点を明示すること
- 外国語 話すこと、書くことにおいて、中学校では身の回りや身近な場面、高等学校では社会的な話題をテーマに設定すること

(4) 本研究における身に付けさせたい能力に迫る単元計画や学習過程のモデルの提案

- 国語では、小学校・中学校・高等学校における単元を通しての学習過程を示した。
- 社会と理科では、問題解決的な学習を小学校、中学校、高等学校の実態に応じて行う必要があることを示し、校種や内容に応じた学習過程のモデルを示した。
- 算数・数学と外国語は、全ての校種で共通した1単位時間の学習の展開を示した。

各教科の特性や発達の段階に応じて単元構成や1単位時間の学習の組み立てに違いがあることを明確にすることができた。これらのモデルを参考とすることにより、授業改善を図ることができる。

(5) 指導事例の作成

検証授業から、手だてを明確に位置付けた指導事例を作成した。全時間の展開例を示し、単元を通して、どのように学習の組み立てを行うかが見通せる事例を開発することができた。本指導事例は、単元構成や1単位時間の学習の組み立てを行う際に活用でき、授業改善に役立てることができる。また、指導事例を東京都教職員研修センターのホームページに掲載し、広く活用できるようにした。

(6) 系統表の作成

基礎研究、調査研究、研究開発を通して系統表を作成した。系統表を活用することにより、小・中・高の12年間の学びにおける、各発達の段階で身に付けさせたい力を教師が理解することができた。また、指導する段階の前や後で身に付けさせる力も踏まえて、授業の組み立てや手だてを設定することにつながり、授業改善に活用することができる。このことによって、児童・生徒の能力の定着を図ることができる。

(7) 小学校・中学校・高等学校の教員の交流

本研究では、検証授業を校種の違う調査委員が参観し合い、研究を進めてきた。他校種の授業を参観する機会は、小学校と中学校では、小中連携の取組が進み一定程度あるものの、高等学校の授業を小学校と中学校の教員が見る機会や、高等学校の教員が小学校や中学校の授業を見る機会は少ないと言える。調査委員からは、他校種の授業を実際に参観して、指導の実態を理解することの大切さについて実感する声が多く上がった。

2 今後の取組

(1) 研究成果の普及・啓発

研究成果の普及・啓発として次の取組を行っていく。

- ・研究の成果を研究紀要及び指導資料にまとめ、各学校等に配布し、授業改善に役立てる。
- ・東京都教職員研修センターの教育経営課、授業力向上課、専門教育向上課の研修で、研究内容を踏まえた研修を実施する。
- ・都教委訪問等で、研究内容を踏まえた指導・助言を行い、学校での指導改善を図る。
- ・東京都教職員研修センターで実施する夏季集中講座や研究発表会、各種研修において、研究内容の普及を図る。
- ・調査委員が、教職員研修センターにおける各研修における講師を行うほか、各地域での普及・啓発を図り、教科の指導の改善に資するようにする。
- ・指導事例、系統表等研究に関わる開発物を教職員研修センターのホームページに掲載し、研究成果を活用しやすくする。

(2) 小・中・高の学びの連携

本研究の成果を、校種間の連携に役立てていく。また、小・中・高の教員が他校種の授業を参観する機会を研修等に位置付け、教育課程の連続性を踏まえた指導改善に生かしていくようにする。

○ 参考文献・資料等

- ・「小学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年3月告示
- ・「中学校学習指導要領」 文部科学省 平成20年3月告示
- ・「高等学校学習指導要領」 文部科学省 平成21年3月告示
- ・「小学校学習指導要領解説」（総則、国語、社会、算数、理科） 文部科学省 平成20年8月
- ・「中学校学習指導要領解説」（総則、国語、社会、数学、理科、外国語）
文部科学省 平成20年9月
- ・「高等学校学習指導要領解説」（総則、国語、地理歴史、数学、理科、外国語・英語）
文部科学省 平成21年7月から平成22年6月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（小学校・中学校）国立教育政策研究所 平成23年11月
- ・「評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料」（高等学校「共通教科」）国立教育政策研究所 平成24年7月
- ・「適正で信頼される評価の推進に向けて」 東京都教育庁指導部 平成23年11月
- ・「発展的な学習を推進するための指導資料」 小学校編 東京都教育委員会 平成23年3月
- ・「発展的な学習を推進するための指導資料」 中学校編 東京都教育委員会 平成24年3月
- ・平成23年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果 東京都教育委員会
- ・平成24年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」結果 東京都教育委員会
- ・平成23年度「全国学力・学習状況調査」結果 文部科学省
- ・平成24年度「全国学力・学習状況調査」結果 文部科学省
- ・平成24年度「東京都立高等学校入学者選抜学力検査結果に関する調査」報告書 東京都教育委員会 平成24年5月
- ・都立教育研究所 研究資料
- ・平成23・24年度版 都立高等学校 地理歴史科用「江戸から東京へ」 東京都教育委員会
- ・「ことばで伸ばす子どもの学力ー小学校・言語活動の評価と指導のポイントー」
角屋 重樹 ぎょうせい 平成22年8月
- ・「SPSSによるやさしい統計学」 岸 学 オーム社 平成24年5月
- ・「アンケート調査と統計解析がわかる本」 酒井 隆 平成15年10月
- ・「なぜ理科を教えるのかー理科教育がわかる教科書ー」 角屋 重樹 文溪堂
- ・「新中学校社会科 重点事項の実践開発」 大杉 昭英 明治図書出版
- ・「新しい学びを拓く理科授業の理論と実践 小学校編」 角屋 重樹 ミネルヴァ書房
- ・「〈単元構想表〉が生きる！中学校国語科 授業&評価GUIDE BOOK」 富山 哲也 明治図書出版
- ・「中学校・高等学校PISA型『読解力』ー考え方と実践 田中 孝一 西辻 正副
富山 哲也 明治書院
- ・「小学校社会 授業を帰る5つのフォーカス」 澤井 陽介 図書文化社
- ・「社会科力UP 授業が変わる地球儀活用マニュアルBOOK」 澤井 陽介 寺元 潔
明治図書出版
- ・「中学校理科 学力向上6つの授業改善ー新時代を見通す課題と対策」 清原 洋一
山口 晃弘 中村 日出夫 東洋館出版社

等